岐阜県農政審議会計画策定部会（第６回）開催結果

１　日　時：平成２７年１０月２７日（火）　１０時００分～１２時００分

２　場　所：岐阜県水産会館２階　会議室

３　出欠状況

（出席委員）

大野　二三　（前 岐阜県女性農業経営アドバイザーいきいきネットワーク会長）
菊本　　舞　（岐阜経済大学経済学部准教授）
興膳　健太　（ＮＰＯ法人メタセコイアの森の仲間たち代表理事）
中野　雅敏　（イオンリテール株式会社　東海・長野エリア政策推進チーム）
西村　寿文　（全国農業協同組合連合会岐阜県本部副本部長）
林　　智子　（生活協同組合コープぎふ組合員理事）
前澤　重禮　（岐阜大学応用生物科学部教授）
渡邉　健彦　（岐阜県農業協同組合中央会常務理事）

以上８名

（欠席委員）

土川　洋功　（前 岐阜県青年農業士連絡協議会会長）
和仁　松男　（岐阜県農業参入法人連絡協議会会長）

以上２名

※５０音順

（県）

農　政　部	両次長、農業技監
農　政　課	技術総括監、農業研究企画監、笠松競馬支援室長、水産振興室長
検査監督課	課長
農産物流通課	課長
農業経営課	課長、担い手対策室長
農産園芸課	課長、花き振興企画監
畜　産　課	課長、畜産指導監、家畜防疫専門監
農村振興課	課長、鳥獣害対策室長
農地整備課	課長、技術指導監

４　議事

議題１　新たな「ぎふ農業農村基本計画」（素案）について

５　議事要旨

別紙のとおり

別 紙

岐阜県農政審議会計画策定部会（第６回）議事要旨

１　開　会

２　農政部次長開会あいさつ

（中島農政部次長）

○　本日は、６回目の計画策定部会ということで、部会にてとりまとめいただいた骨子案の３つの柱の方向性を踏まえ、具体的な施策を盛り込んだ計画素案をお示しする。

○　ＴＰＰ協定が大筋合意されたことから、情報収集に努め、本県への影響の見極めや、必要な対策の検討を進めており、新計画において対応を打ち出していきたい。

○　農政審議会や県議会のご意見を踏まえ、食料自給率の向上について記載するなど、新たな視点を加えた部分があるので、ご審議のほどお願いしたい。

３　議　事

（前澤部会長）

○　今回は、計画素案の審議ということで、これまでの議論に沿った計画となっているか、必要な施策が盛り込まれているか、または優先度の低い施策があるのではないかといった視点でご意見をいただきたい。

（１）新たな「ぎふ農業・農村基本計画」（素案）について

○　雨宮技術総括監から資料１に基づき説明。

＜多様な担い手づくり＞

（渡邉委員）

○　企業誘致の施策に、担い手への農地集積の目標が位置付けられているのに違和感がある。

（雨宮技術総括監）

○　担い手への農地集積の指標の位置付けに違和感があるのは否めないので再考したい。

（渡邉委員）

○　企業誘致では、地元の合意形成が一番重要である。手法としてはいいが、前提として、地域内に十分な担い手がいる場合は、担い手を優先するなどしないと、地域で混乱を招きかねないので、注意が必要である。

（西村委員）

○　企業誘致については、担い手が足りていないので、地域内でうまくやっていくことが

大事なところである。農政の方が上手にコーディネートしてうまく進めてもらいたい。

（興膳委員）
○　指標はアウトプットが中心であるが、担い手を育成する数や、その相談件数など指標を具体的に落としていけると、やることがより明確になるのではないか。
○　担い手育成に思い入れがあり、特に力を入れて欲しいと思っている。もう少し具体的に書いてあるとよい。

（中野委員）
○　企業誘致について、実際に企業側には進出に対するオファーがある。地域によってスタンスが異なるので、県の立ち位置を明確にして地域の合意形成を進める必要がある。
○　定年帰農について、ハローワークなどでも情報が得られるような取組みができるとよい。うまくマッチさせていけば定年帰農者はもっと伸びるのではないか。

（前澤部会長）
○　県の食料自給率目標はいつも高めに設定されていて実現が難しい。生産額ベースの自給率、野菜など岐阜県が得意とするところのポイントを上げることを併記してはどうか。

（雨宮技術総括監）
○　生産額ベースの食料自給率の検討は行っており、継続検討していきたい。
○　目標指標は、アウトプットで設定している。アウトプットに至るまでの過程の指標は、内部管理していきたい。

（興膳委員）
○　担い手づくりのところで、ＴＰＰのこともあるので、国際競争にも強い担い手の育成、海外志向の人材の育成を位置付けてはどうか。

（全農岐阜　西村委員）
○　米は現状として過剰作付けで、今年度も飼料用米に１万トン程度転作している中で、食料自給率上げるために６千トンの増産が必要というと現実離れしている感じがする。

（雨宮技術総括監）
○　県民の皆さんに消費喚起したいという意図で記載したところ。

＜売れるブランドづくり＞
（興膳委員）
○　主要品目別施策のところで、できれば担い手数を記載して、限られた担い手への集約によるものか、担い手数の維持によるものなのか、戦略を明確にしてほしい。

（雨宮技術総括監）

○　内部では把握してしっかり分析していきたい。計画ができた際には、進捗管理して、審議会の方に報告させていただくことになる。

（西村委員）
○　園芸品目について、ほうれんそうは、担い手の数が減る中で、一部の方が面積拡大して生産量が維持されてきたが、そろそろ限界である。一定の規模がないと経営が成り立たず、新規に始めることが難しいので、中規模の方がやめてしまう前に、新規の方に経営を継承できるような仕組みづくりを考えていく必要がある。
○　茶は生産面の取組みを中心に記載されているが、需要が減って、価格が下がっていることが、廃園が増加している要因である。需要拡大の取組みをお願いしたい。
○　いちごの単収目標について、土耕栽培と高設栽培で元々の単収が異なる。一緒にして指標化するよりは、それぞれで目標を立てた方が生産者にわかりやすいのではないか。

（中野委員）
○　販売フェアについて、農産品と６次産業化商品を一緒に販売することも必要であるが、他部局間の連携が必要である。農業、観光、商工、子育て支援など全体をコーディネートして、岐阜県をＰＲする計画としたい。

（林委員）
○　特色ある食の魅力の発信について、地域の中で実際に郷土料理を作っているのは、地域の女性部である。地域の女性部などが中心となって、地域の人たちとともに作り上げていくという観点を加えて欲しい。

（西村委員）
○　加工野菜について、カット野菜が増えていく中で、地産地消をアピールする意味でも、原材料の原産地の表示に取り組まないといけないと感じている。
○　６次産業化について、６次産業化は農家が加工、販売まで手掛けないといけないイメージがあるので、農商工連携を含むことが読めるような表現にしてほしい。

＜住みよい農村づくり＞
（菊本委員）
○　耕作放棄地対策の強化で、耕作放棄地の再生について、新規就農者あるいは移住・定住者が耕作放棄地の再生に携われると良いのではないか。

（興膳委員）
○　農村ビジネスの創出について、高知県は加工グループに対し、先進地での合宿を伴う視察を行い、視察中に事業計画を作るという研修を実施しているので参考にしてほしい。

（大野委員）
○　現在も女性部が活動しているが、実際のところ、高齢化が進んでそういう活動が難し

くなっている。

（興膳委員）

○　若い世代の女性は、子育ての最中であるが、それが落ち着けばこういったことにも関心がある。女性移住者の中には、実は、郷土料理や田舎暮らしに関心がある人が沢山いるので、そういった橋渡しの仕組みができると良い。

（前澤部会長）

○　目標数値は右肩上がりに設定されており、自給率、農業産出額の目標があるが、他の指標が達成できれば、これらの目標が達成されるのかの判断が難しい。特に食料自給率の達成は難しいと感じるので、表現の仕方を検討し直した方が良い。

○　計画実現に向けての推進体制について、県とＪＡの連携ができていないといけない。ＪＡグループの計画について、県が意見を述べて、反映していけるとよい。

（渡辺委員）

○　現在、ＪＡグループでも２８年から３０年の中期計画を作成中である。県の計画は、県全体であるのに対し、ＪＡは７地域であるので、圏域や地域ごとの分配があれば単協の計画に反映できるのではないか。

（前澤部会長）

○　今後、パブリック・コメント実施に向けた修正等が見込まれるため、当面の計画案の修正等について、私に一任していただきたい。

６　閉　会

○　熊崎農業技監から閉会あいさつ